

震災資料室展・アンケート・感想ノート

今回の資料室展に会場された方々が「アンケート用紙」・「感想ノート」に書かれていた内容の抜粋を紹介します。ほとんど原文のままですが、一部省略したのもあります。(文責・津村)

来場者の声

「災害の直後、和歌山県の長田小学校より、慰問をいただき、その三ヶ月後お礼に行った。慰問を受けたうれしさに対して謝意を表したが、その後、友好が続いている。収集の作業「苦労様です。」

「資料整理「苦労様です。今もって、当時の事を思い出すと胸が痛みます。涙が出てきます。忘れないために、折りにふれて、資料の公表をお願いします。」

「人は苦しみや悲しみを忘れなければ生きていくのが辛い。決して忘れてはいけない苦しみや悲しみを震災の資料として大切に保存し、後世に伝え、二度と繰り返さないように祈ります。」

そして、絵手紙や花・絵等の美しく、あたたかい作品を創り見ることで心がいやされ優しく微笑むことができるように思います。ありがとうございます。」

「阪神大震災で親を亡くした子は六百人以上、その内両親を亡くした子が百人以上います。街並がどんなに回復し、たとえ震災前より開発され近代化された街が出来上がってきても、彼等がこれから先一生孤児として生き抜いていかなければならない現実が変わりません。その他にも家族を失った方々、障害を負われた方々、復興のため私達がどんなに努力してもいややされない傷です。その傷をのりこえようと努力されている人々の姿に触れるたびに精神力というものが、生きていく上で非常に重要なものであると思います。」

「今の時点に至って、資料を残すことの大切さを思い知らされています。」

「安否確認、物資配布、支援等で走りまわった頃の記録や資料が散逸してしまっています。今からでも集めなおしたいという気になりました。」

「震災から学んだこと」のアンケート

「私は、御蔵小学校に避難していました。今日のいろいろの記録写真を見て、涙がこぼれました。何年経っても忘れません。一生の思い出になります。ありがとうございます。」

「震災展を見て、当時を思い出し胸がいっぱいです。仮設住宅に居られる人の事を思うと、今の自分はまだまだだと心から感謝しています。」(男・74歳)

「被災者でありながら、当時の被災実体がテレビ、新聞等も知らず一部しか見ていないこともあり、当展示会はよい企画であったと思います。」(男・74歳)

「贈り主への感謝の気持ちを大切に。当たり前と思わない。」(女・28歳)

「困った時には、お互い支え合い励まし合いが生きる力と知恵を与えてくれます。被災者の中には甘えっぱなしの者もいますが、私達も反省し今後の協調等を考えたいと思います。」(男・55歳)

「今回の震災では他県からの物資を頂き涙が出るほど嬉しかったのですが、気になることがありました。それは、言った者が得をするというか、不必要なものまで皆で分けていることでした。もっと困っている人が多かったのに、善意が踏みにつられる気がして残念です。」(女・31歳)

茶道部だより

お昼休みのお茶会には、資料室展を見にこられた方が多数参加されました。九月二日、九月四日までで延人数二百五十名程の方がこられ、盛会に終わりました。茶道部では、「野の花・紅葉・菊」などしこ・朝露」と五種類のお菓子を用意し、皆さんにお茶を楽しんでいただきました。また機会があれば、日頃の練習の成果を見ていただきたいと思います。



人・街・ながた震災資料室だより

人・街・ながた 震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第9号

- 1. 資料室展・作品展終わる
- 2. 紹介・ニ采小学校 奄美むつみセンター
- 3. アンケート他

秋の震災資料室展と職員作品展終わる

「秋」の震災資料室展と職員作品展が盛会の内に終了しました。丹精こめた作品を多数出品していただきありがとうございます。作業中のため前回展示できなかった資料も整理し展示することができました。多くの方がご来場くださり、熱心に資料や作品をみておられました。感想ノート・アンケートにも、ご意見・感想等ご記入いただきありがとうございます。順次、紹介をさせていただきます。

また「お茶を楽しむ会」の協力で、昼休みにゆったりとお茶とお菓子をいただき、好評でした。今回の展示にさきだち、新しい資料を提供いただきましたので、次葉にて紹介させていただきます。

★十二月四日、五日・ポートピアホテル別館で避難所運営に来てくださった自治労の皆様が会合を予定されています。当資料室は同ホテルで資料室展を開催します。
★なお、ひきつづいての資料提供をお願いします。

